

令和7年度 第3回 浜松市立北浜小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月28日（金）14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 浜松市立北浜小学校 会議室
- 3 出席委員 熊谷 三郎、鈴木 澄子、白井 一光、齋藤 千朝、田原 さやか
鈴木 崇之
- 4 オブザーバー 松野 聖（北浜南部協働センター）
高林 未央（元PTA副会長）
- 5 学 校 定盛 俊孝（教頭）、常名 剛司（教務主任）、平野 晓子（CS担当）
吉川 隆太（3年3組担任、花壇担当）、古橋 佳代（CSディレクター）
- 6 教育委員会 山本 俊行（学校・地域連携課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 古橋 佳代
- 9 議長の選出
司会者の平野より、議長の選出について委員に意見を求めたところ、本日は白井委員が務める旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - (1) 校内花壇の管理・運営について
 - (2) 本年度の学校経営の取組について
- 11 会議記録
司会者より委員総数6人のうち6人出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 校内花壇の管理・運営について
議長の指示により、花壇担当の吉川から別紙資料に基づき今後の花壇運営についての説明があった。
 - ・にじいろ花壇の時計は、故・木村恭子（愛称きむちゃん）先生への思いを込めた寄贈物であり、北浜小学校のシンボルとして児童を見守る存在として大切にされていることが共有された。

- ・持続可能な花壇経営に向け、職員・オブザーバー・地域ボランティアの協働体制を「無理のない範囲で共にやる」方針で模索している。

(2) 本年度の学校経営の取組について

① 学校運営協議会委員の意見

- ・子供たちと関わりやすい雰囲気をつくってくれたおかげで、自分なりに子供たちとの距離を近づけた。花壇活動は花を育てるこことによって子供たちが育ち、また花だけでなく関わる地域住民そして地域全体が育っていくと思う。
(熊谷委員)
- ・昨年よりも応援団活動の事前打ち合わせがよくできた。地域ボランティアへの認識の変化を感じる。花壇の近くに住む地域の方が水やりを関与してくださるのは心強い。
(鈴木澄子委員)
- ・地域の人たちにお願いすると快く協力していただき、ありがたい。子供の頃は学校にお世話になったという思いがある。よって、学校に関わらせてもらっている以上、一生懸命やりたいと思う。
(白井委員)
- ・「北斗秋祭り」の際、子供たちが声をかけてくれたことが嬉しかった。
(斎藤委員)
- ・子供と大人が対等に会話でき、先生方が子供たちに歩み寄っている学校だと感じる。子供を通して聞く情報と自分の目で見る情報の2つがあると思うが、保護者にも学校に足を運んでもらえる工夫が大切だ。
(田原委員)
- ・学校の運営に関わることができたおかげで、素晴らしい学校と認識することができた。「自分のできることを少しだけ」という思いで、これからも草取りボランティアに参加したい。
(鈴木崇之委員)

② 全国学力・学習状況調査の報告（教務主任）

- ・調査では、今年度の平均正答率が国語・算数・理科で県・全国を上回り、特に算数で高い正答率の報告。一方で標準偏差が高めで個人差の拡大（ばらつき）の可能性が示された。ICT活用や家庭学習、生活習慣（朝食毎日：89.1%）が成果に寄与したとの分析が述べられた。

③ 教育課題アンケートの結果（教務主任）

- ・学校評価アンケートでは、前年と大きな傾向差はなく、「学校が楽しい」と感じる児童が90%以上。評価項目の設定者（教師）は厳しめの自己評価傾向があるとの説明。自由記述では、低学年は友達・休み時間・給食に重きを置き、高学年は授業・行事・委員会へ関心が移る。設備面の具体的要望（トイレの様式化）も見られた。

④ ワークショップ（地域を青色の付箋・保護者をピンクの付箋・学校を黄色の付箋）とし、それぞれの立場で今年度のグランドデザインが示す子供の姿や取組等で感じることを付箋に書き、拡大印刷したグランドデザインの模造紙に付箋を貼りながら意見を出し合った。）

- ・ワークショップでは、付箋を「視点」として捉え、今年度の学校運営を振り返る視点が提示された。グランドデザインに即した「子ども主体」の具体像を意識し、来年度の教育課程・カリキュラム・マネジメントへ反映する意向が示された。
- ・情報モラル・ICT活用、防災マップの取り組み、郷土愛・地域愛の醸成、幼保連携、異年齢・異世代とのつながり、放課後の家族・地域参加の場づくり等が話し合われた。

(貼られた付箋の一部)

立 場	グランドデザイン	付箋の内容（視点）
地域（青色）	自分の考えを伝え合い、学び続ける子	落ち着いて授業が行われている。
保護者（ピンク）	自分たちの手で安心して過ごせる学校・学級をつくる子	学校支援に学校応援団を引き続き活用して欲しい。
学校（黄色）	元気に楽しく体をつくり、自他の命を大切にする子	子供と地域とともに防災への取組をする。

（3）2学期の活動報告

学校支援コーディネーターの鈴木澄子、白井から学校応援団の活用報告があった。

- ・2年生校外学習の引率補助、総合学習「S D G s」の募集、地域の花壇の整備。

今後、書き初めの補助、ベンチ設置に関するプロジェクトは来週行う予定。

12 オブザーバー、教育委員会より

- ・北浜南部協働センターは子供たちが地域の場に参加してもらえることが大切と感じている。
たてわり活動が子供たちに良い影響を与えている。授業参観したことにより、色々な発見があった。
(北浜南部協働センター松野)
- ・学校応援団は地域、保護者の方々などみんなが協力して参加できているのが素晴らしい。
学校との縁の輪が広がって、子供たちが新しい挑戦ができるようになることを期待している。
(元P T A副会長高林)
- ・会議の雰囲気は子供に関わる大人も楽しいと感じているといった状況であることを感じる。きっと、そういう方々と関わることで、子供たちも自然と楽しく感じているのではないか。教育課程に反映していただいて、来年度のカリキュラムマネジメントに生かしてもらいたい。
(地域連携グループ山本)

13 その他連絡事項

司会から次回会議は令和8年2月18日（水）14時30分から授業参観後、会議室で開催する旨の報告があった。